

つがる市民診療所が開所

市民の「かかりつけ医」として健康を守る

つがる西北五広域連合の自治体病院機能再編に伴い、つがる成人病センターにかわる医療機関として建設された「つがる市民診療所」が開所しました。3月2日、同診療所で竣工式・開所式が行われ、関係者約120人が完成を祝いました。竣工式では、玉串を捧げ施設の安全を祈願。開所式では、福島市長のあいさつに続き、岩村秀輝所長が「懸案であった医師の充足は弘前大学のバックアップもあり、十分な人数でスタートできることに感謝します。西北五地方の医療の再編化は、やっと種がまかれた状態であり、少しずつ上手に育てていければと思います」と述べ、テープカットが行われました。



受付と会計。右は再来者用受付機



約100席のイスを設置し床暖房完備の待合ホール



問診コーナー



診察室



新たな診療所の開所を祝ってテープカット

開所にあたって

つがる西北五広域連合 副連合長(つがる市長)

福島 弘 芳



「つがる市民診療所」の開所にあたり、関係者の皆様には多大なるご尽力をいただき感謝申し上げます。また、市民の皆様のご理解とご協力に對しましても厚くお礼を申し上げます。

さて、「つがる成人病センター」の歴史を振り返ってみますと、昭和28年に開院した「木造病院」を前身に、昭和55年、弘前大学医学部の協力を得て「木造町立成人病センター」として開院し、県内でも最先端の医療機器であったCTスキャナを設置するとともに、全国的にもまだ少なかった大腸がん検診の拠点病院として地域医療を担ってききました。つがる市誕生後は「つがる市立成人病センター」となり、平成24年に広域連合へ

経営が移管された後も市民の健康を守り続けてきました。

新たに建設されました「つがる市民診療所」は、安心して住民が利用できる診療所として、市民の「かかりつけ医」の役割を担い、これまで成人病センターが果たしてきた理念を受け継ぎ、つがる総合病院や近隣の医療機関等との連携を図りながら新たな役割を果たしてほしいと願っております。

市では、健康増進対策の一環として、子どもたちへの医療費の助成や、がん検診の無料化、胃がん撲滅のためのピロリ菌検査などの事業を独自に取り組んでいます。今後は「つがる市民診療所」を拠点に、一層の力を注ぎ、子どもから高齢者まで安心して安全に暮らせるまちづくりを推進してまいりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



最新の一般撮影用レントゲン機器



新しいコンピュータ断層撮影装置(CT)



採血や注射などを行う処置室



心電図室。血管年齢の測定もできる



超音波検査室



内視鏡室

